

vol.53-04 (通算 601 号)

2023年7月号

やどかり

2023年7月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

2023年度定期総会開催 障害者権利条約・総括所見から学び実践を 話し合いを積み重ねる1年に

2023年6月17日(土)にやどかりの里の定期総会がやどかり情報館の会場とオンラインのハイブリット形式で行われた。

開会にあたり増田一世代表理事は「COVID-19への不安がまだまだ拭えない状況の中ではあるが、久しぶりに皆と顔を合わせ、会えたことがうれしい。積極的に意見を出し合える総会となってほしい」と述べた。

現在、法人会員は267人。当日までに意思表明をした会員は107人であり、オンライン出席を含む68人が出席を確認され、定款24条により総会の成立を宣言した。

総会の審議事項は、2022年度事業報告と決算報告、監事1名の退任と1名の選任、定款第3章(役員)第13条(職務)の定款変更であった。いずれの議案も審議の上承認された。

総会では、事業報告書「所報」と決算関係書類に基づいて、各担当から順次説明が行われた。冒頭では、やどかりの里の1年間を総括した報告があり、12月に安保三文書が閣議決定され、日本国憲法施行75年を目前に日本国憲法の理念を蔑ろにする動きがあること、一方では2022年8月には、日本の障害者権利条約の履行状況が審査され、9月には国連障害者権利委員会から総括所見が発表されたこと、など社会の動きに触れた。総括所見では、国際水準から大きく遅れる日本の精神医療の現状が厳しく指摘された。精神科病院で相次ぎ露呈する人権侵害、優性保護法問題、さらには「いのち、平和、人権」が脅かされていることなどが指摘され、解決に向けた大きな

一歩を踏み出さなければならないと報告された。

また、やどかりの里の2022年度活動方針は「地域のつながりを広げ、やどかりの里のこれからを展望する」であった。「未来を拓くつなぐ・つくるプロジェクト」では、誰1人取り残されない社会を目指して、地域巡回、まちなか保健室、新たな拠点の開設、手づくりのキッチンカーの製作などを行い、地域とのつながりを育みながら自らの手で夢を実現していく喜びがあったと報告された。

会員からの意見として、「笑っているうちが幸せだ。働く場、生活の場であっても笑っていられる場がやどかりの里であってほしい」また、家族からは「メンバーが気持ちを向けられ、笑顔で心が通じ合える場であってほしい。メンバー、家族、職員と共に創り上げてきたのがやどかりの里。大きな組織となり、今は少しその関係が薄くなってきていると感じる」との意見が寄せられた。

やどかりの里はメンバー、家族、職員の三位一体で活動を創り上げてきた歴史がある。改めて会員からの声に応じて、地域におけるやどかりの里の役割を明確にしていかなければならない。まずは学習を重ねていくことも大切だ。新たに出版された日本障害者協議会編『障害と人権の総合事典』(やどかり出版、2023)を用い、障害者権利条約や総括所見の理解を深め、メンバー、家族、職員との話し合いを基盤とした活動づくりを展開していきたい。

(金子 猛)